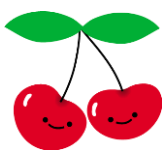


# さくらんぼ



～やさしく・かしく・たくましく～

NO. 7 平成30年11月21日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

園庭の紅葉した木々の葉も散り始め、朝は肌寒く感じられるようになり、2学期もあとひと月となり、子どもたちは友達関係も広がり、思いを伝え合ったり、相談したりしながら遊びを自分達で進めていくことを楽しむ姿が見られるようになっていきます。

11月は研究会やバザーなど保護者の皆さんに様々なご協力をいただき、無事終えることができました。ありがとうございました。

バザーでは、保護者の皆さんのお店に加え、星組も焼き芋屋や梅ジュース屋、小学一年生との交流で楽しんだお店を開きました。焼き芋屋で使った落ち葉は保護者の落ち葉掃きボランティアの方々が集めてくださったものと、星組が集めたものとで焚火をしてつくりました。星組が自分達のお店に誘う姿に保護者の方がこころよく協力していただき、子どもたちも達成感を味わえたようでした。

バザーへとつながった星組の一年生との交流での姿や風組の友達関係の育ちの姿をお伝えしたいと思います。

## ふぞくゴーゴーフェスタ～一年生と一緒に～

10月の中旬、附属小学校の一年生から「ゲーム屋さんをつくれたので来てください。」とお誘いがありました。小学校の中講堂に行くと、どんぐり迷路やどんぐり占、ゴルフや野球など、秋の自然物を使ったおもしろそうなゲームコーナーがたくさん！子どもたちもはじめは緊張した表情でしたが、小学生から優しく教えてもらったり、どんぐりのお土産をもらえたりしたことが嬉しく、最後の方は夢中になって楽しんでいました。振り返りの時間に一年生からこんな声が…。「次は幼稚園のみんながつくれたお店にも行ってみたいです。」その言葉を聞いてやる気満々になった子どもたち。幼稚園に帰るとすぐに、段ボールや空き箱などを使ってお店屋さんをつくり始めました。「そうだ、ラーメン屋さんしよう。」「これ（緩衝材）を切ってラーメンの麺にしたらいんじゃない？」「私はUFOキャッチャーをつくるよ！」と、お店屋さんのアイデアを次々に出していました。また、「商品をつくらうよ」「持って帰れるものがあったら、一年生も喜んでくれるかも！」



と一年生のために友達と協力しながらお店屋さんづくりをする姿も見られました。子どもたちでつくったお店は、UFOキャッチャー、くじ屋、ペットショップ・動物病院、クレープ屋さん、タクシー、ラーメン屋さん、ドーナツ・ケーキ屋さん、お化けの的当ての全部で8種類です。どのお店も子どもたちの思いや工夫が詰まったとても素敵なものでした。

10月の下旬に、一年生を遊戯室に招いて、自分たちのつくったお店を楽しんでもらいました。くじ屋さんでは、途中で商品が無くなると「まだまだ一年生が来るから、ぼくたちでつくろうよ！」「そうだね！紙飛行機ならすぐにつくれるよ！」と友達と相談しながらお店を進めようとしていました。ペットショップ・動物病院では、一年生から「これかわいいね。もらっているの？」と自分たちのつくった動物の折り紙をほめてもらい、ほころんだ顔でお客さんをもてなしていました。たくさん楽しんでもらえたという喜びや満足感が、子どもたちの自信になり、またやってみたいという意欲にもつながっているのだと感じました。

自分たちのお店にも行きたいし、また一年生のお店にも行きたい…ということで、「ふぞくゴーゴーフェスタ」と名付け、次は一年生と星組と一緒にお店を開いてみようとなりました。今回は、交互にお店屋さんとお客さんになるため、前回より少ない人数でお店を進めないとはいけません。ずっと同じ役割をしていたAくんは、

「商品をつくってばかりは疲れるから、代わって。」と自分の思いを伝え、友達と交代しながら最後まで取り組んでいました。友達とやり取りをしながら、役割分担したり、お客さんのために最後まで頑張ろうとしたりする姿がたくさん見られた一日でした。



交流を重ねていく中で、「一年生のために」という思いをもってお店屋さんをつくる姿がたくさんありました。直接かかわっていない時間でも、子どもたちは一年生のことを思いながらお店づくりに取り組み、子どもたちにとって、「小学生」という存在が身近なものになっているのだと感じました。また、花組さんや風組さんも招待して、いろいろなお客さんに楽しんでもらった子どもたちは、お母さんたちにも来てもらいたいという気持ちになっています。PTAバザーでは、子どもたちの開くお店屋さんを楽しんでもらえたでしょうか？お家でも、お店屋さんのおもしろかったところや素敵なお店を子どもたちに伝えてみてください！お家の人に喜んでくれたことが、また次の意欲につながっていくことと思います。

(高橋)

## みんなの思いがつながって

子どもたちが風組として幼稚園で過ごして、半年が過ぎました。それぞれが楽しいことを見つけて遊んでいた日々から、友達と一緒に

に楽しいことを見つけて遊ぶ日々になってきています。

10月の中旬に、風組2の教材室の入り口にトンネルを子どもたちとつけました。すると、「ここに線路を走らせよう！」と教材室の中に、ビニールテープで線路を引き始めました。線路を引くと、教材室を出たところにある風組1の方まで伸ばしたくなりました。新幹線をつくり、トンネルもつくり、線路を引いていた3人は、福田先生に「風1さんにもつなげていい？」と聞き、「いいよ」と返事をもらってうれしくなり、風組1の保育室まで線路が伸びました。それを見た風組1の男の子達が、「線路だ！つなげよう！！」とはりきり、つなげ始めました。それを見た風組2のY君が、「風組さんでぐるっとつなげたいんよ！風1さんにも言うてくる！」と言って、部屋を出て行き、「言うてきたよ！」と元気に帰ってきました。風1さんにも3人の思いが届き、それから、お互いに線路をひたすら伸ばし、風組の保育室が線路でつながり、子どもたちが風組の保育室を行き来するようになりました。「ドクターイエローが通りまーす」と言って、風組1の男の子達が風組2の保育室を通り抜けていったり、風組2の子が風組1の前で踊っていたりと、風組の子どもたちが1と2関係なく遊ぶことが増えました。

線路が一通りつながると、その線路の周りに子どもたちの遊びが駅として登場し、つくった新幹線に乗って友達の遊びを見に行く姿も見られました。プリンセス駅、アイスクリーム駅、ころがる駅、ポンタの自動販売機駅、USA駅など、様々な駅がありました。お互いに何をして遊んでいるかをよく知っていて、何か楽しそうなことが起こり始めると、ずっと入って同じ所にいたり、友達がどうしたらいいかなと困っていると「～したらいいんよ」と声をかけてきたりしています。今まで、点と点のような関係だった子どもたちが、点と点がつながってきているところだなとしみじみ感じています。

そうすると、もちろん思いの行き違いも起こります。「～ちゃんが～したらいいんって言った」「～くんが～いいんって言ったけえ、もうせん！」という言葉がよく聞かれます。なかなか自分の思い通りにいかず、悲しくなることもあります。でも、その思いの行き違いを、自分の思いを受け止めてもらったり、相手の思いを知ったりするいい機会ととらえて、「～君はこうしたかったんよね」「～ちゃんはこんなことを言いたかったんだって」など、お互いに伝えるように、子どもたちの思いを、言葉で丁寧に知らせていっているところです。そんな私達の姿を見てか、友達の思いの行き違いがあったときに、その間に入って、「こうしたらどう？」「～と～思いよったんよね」と話をしている子どもの姿を見かけ、何だかとてもほっこりした気持ちになりました。「楽しい」や「うれしい」、ときには「悲しい」という様々な思いは、相手がいるからこそ感じられるのだなと子どもたちが思えたらいいなと思って、日々を過ごしているところです。

(厚東)